

噴火湾環境情報 NO.1

2015/9/4

道総研函館水産試験場
調査研究部

担当: 西田, 渡野 邊

湾中央層に貧酸素水塊が形成されてます!!

2015年7月26~27日に噴火湾及びその周辺海域において、試験調査船北辰丸を用いて環境調査を実施しましたので、その結果をお知らせします。図1から、10m深水温は湾口部から湾中央部にかけて18°C以上で、平年よりも2~3°C高くなっています。また、50m深水温は湾外で例年よりも高く、これは津軽暖流水が湾口部付近まで張り出している影響によるものです。図2から、湾中央部の底層(海底直上10m)では、溶存酸素量は約3ml/l以下であり、貧酸素水塊*1が形成されています。また、溶存酸素量の低下は冬期噴火湾水(指標: 図3(a)底層の水温4°C台の水塊)が残留するSta.31の深度80m以深でよくみられます(図3(c))。湾口部付近には津軽暖流水(指標: 塩分33.6以上)が接近しており(図3(b))、暖流が湾内へ流入すれば貧酸素水塊は消滅しますが、流入が遅れば、逆に貧酸素化が進行しますのでご注意ください。

*1: 貧酸素水塊の目安は溶存酸素量3ml/l以下

函館水産試験場のHPからもご覧になれます
(<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research>)

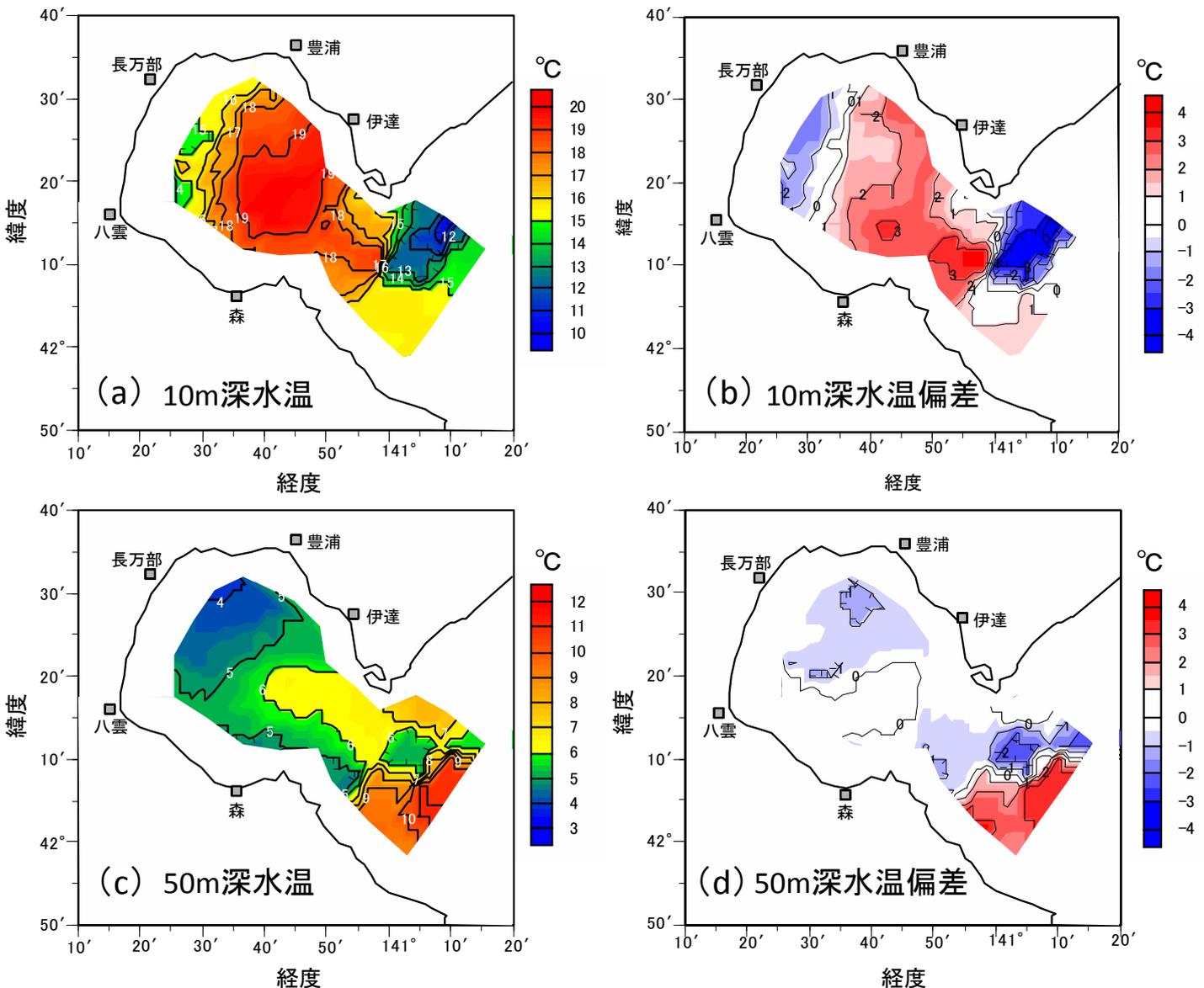


図1 噴火湾及びその周辺海域における10m深(a)水温と(b)水温偏差, 50m深(c)水温と(d)水温偏差の水平分布

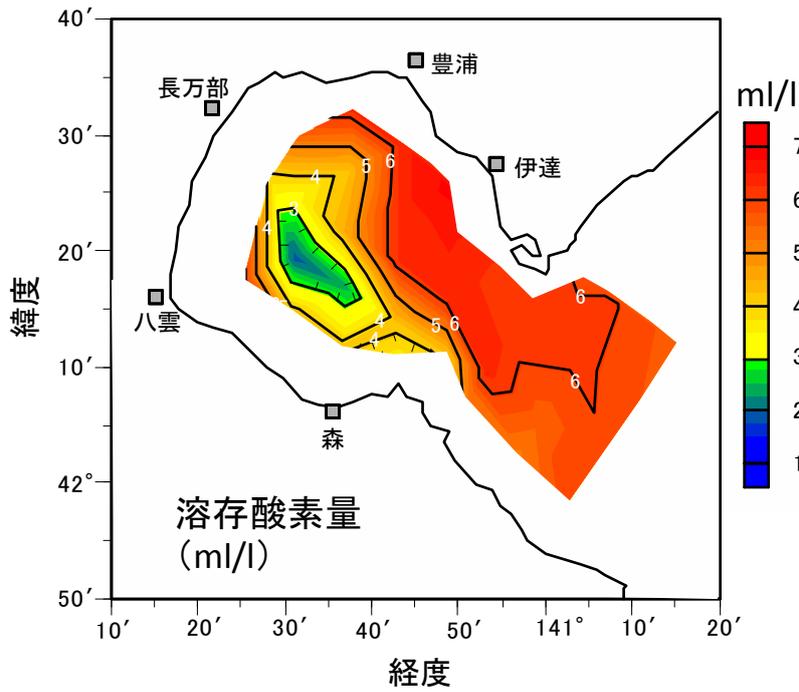


図2 噴火湾及びその周辺海域における海底直上約10mの溶存酸素量

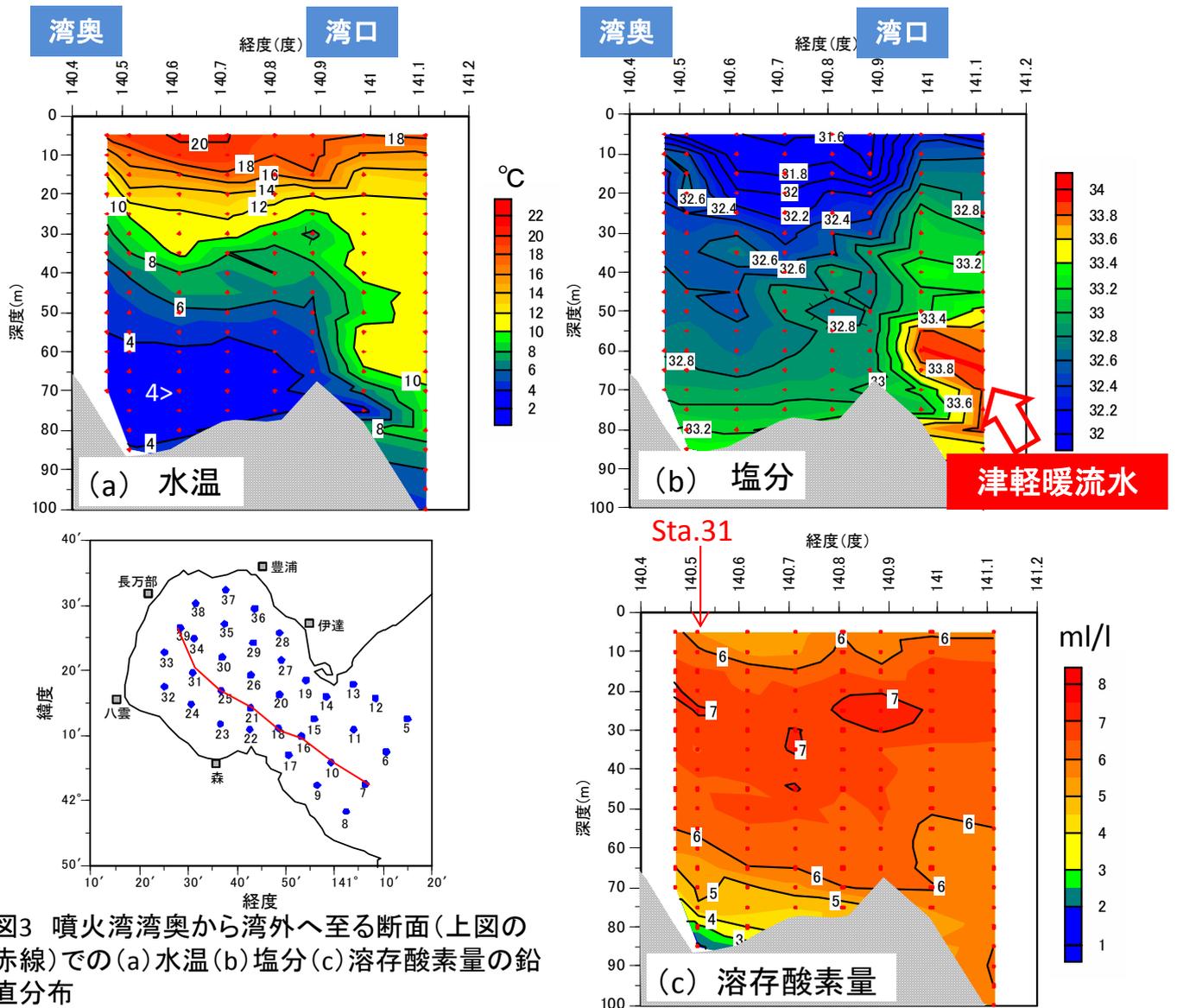


図3 噴火湾湾奥から湾外へ至る断面(上図の赤線)での(a)水温(b)塩分(c)溶存酸素量の鉛直分布